

トップは入れ替わるものです

わたしはごく稀に、「衝動買い」をしてしまうことがあります。
もう随分前に、日経新聞の書評欄で、
経済統計で見る『世界経済 2000 年史』（アンガス・マディソン著）
という本を発見し、「買っとけ、買っとけ」という内なる声に負けて、
衝動買いをしてしまいました（税込価格 13,650 円にも関わらず・・・）

この本は、紀元 1 年から 2000 年までの世界の人口、
実質 GDP を通観できるようにした貴重な「経済統計書」です。
同書の 150 ページに、年代別の
「世界の実質 GDP 総額の地域別シェア」が載っています。

西暦 1000 年	(%)
西ヨーロッパ	8.7%
ウェスタン・オフシューツ	0.7%
日本	2.7%
アジア（日本を除く）	67.6%
ラテンアメリカ	3.9%
東ヨーロッパと旧ソ連	4.6%
アフリカ	11.8%
世界	100.0%

※ ウェスタン・オフシューツ とは、アメリカ、カナダ、
オーストラリア、ニュージーランドを指します。
(アジアが世界の中心地であり、ヨーロッパはまだ辺境であることが伺えますね)

西暦 1500 年	(%)
西ヨーロッパ	17.9%
ウェスタン・オフシューツ	0.5%
日本	3.1%
アジア（日本を除く）	62.1%
ラテンアメリカ	2.9%

東ヨーロッパと旧ソ連	5.9%
アフリカ	7.4%

世界 100.0%

(西ヨーロッパが伸びていますが、引き続きアジアが世界の中心地です)

西暦 1998 年 (%)

西ヨーロッパ	20.6%
ウェスタン・オフシューツ	25.1%
日本	7.7%
アジア (日本を除く)	29.5%
ラテンアメリカ	8.7%
東ヨーロッパと旧ソ連	5.3%
アフリカ	3.1%

世界 100.0%

(ウェスタン・オフシューツ (アメリカ、カナダ、オーストラリアなど) が大きく伸びていることがわかります。ここに至って、世界経済の勢力図は大きく塗り変わっていますね)

1000 年という時の【変化】は、私たちの想像を超えています。しかし、上記の表をご覧くださいと、たとえば昨今の、中国、インドなどの「勃興」は (実は勃興ではなく)、500 年、1000 年ぶりの「復活」であることが、おわかりいただけると思います。

私たちの短い「時間軸」では、先進国といえば、北米、西ヨーロッパ、日本などですが、実はイスラム諸国を含めたアジアも、500 年、1000 年前には、立派な「先進国群」であったわけです。
(四大文明が何処で生まれたのかを、思い返してみてください)

話を現代に戻しますね。私たちが住む 21 世紀において、世界は大きくふたつに分けすることができます。それは「先進国群」と「新興国群」です。

おや、先に歩いている者（先進国）が、
後から追いかけてくる者（新興国）を、複雑な表情で見守っていますよ。

「おいおい、あいつら、ほんとうに大丈夫かな？」
「まさか、俺たちと同じ場所には来られないだろ」

先に歩いている者は、先に歩いている「地点」から後ろを振り返ります。
そして自らの経験 を「座標軸」にして、
後から追いかけてくる者を評価しようとしています。
（そうです）先に歩いている者は、その『優位』を過信してしまうのです・・・。

歴史を振り返れば、先に歩く者は常に入れ替わってきました。
今現在、先に歩いている国々が、後から追いかけてくる国々を
シニカルに見ているとすれば、それは、先に歩く者がどこかで
「焦り」を感じているからだと思われます。

新興国に住む何億という人々が、テレビを買い、携帯電話で話をし、
ローンを組んでクルマを購入する「経済ステージ」に達しています。
先に歩いている者は内心、「おいおい、そんなにがむしゃらにならなくても」
「もうちょっと周りにも気を使いながら・・・」と思っているのではないのでしょうか。

しかし、先に歩いている者も、かつて自分自身が
「がむしゃらにやってきた」ことを知っていますから、あまり大きな顔はできないのです。
今から 50 年後、誰がいちばん先に歩いているのかはわかりませんが、
それでも人々が、成長という歩みを止めることは確かだと思います。